## 初めての韓国

明倫小六年　森信　昌也

まずびっくりしたのは、マンションや家などが急な斜面の上の方までぎっしりと建っていたことです。このような景色は三隅町では見ることができません。次に感じたのは、バスに乗っている時に、何かいつもと違うなぁと思ったことです。最初はなぜかわかりませんでしたが、しばらくして、自動車が右側を走っていることに気付きました。

韓国の文化では、いろいろなことが分かりました。イースンシンのこと、天馬づかのことなど、その中でも一番びっくりしたのは、天馬づかのことです。最初は山だと思っていたものが、なんと墓だったのです。そして、その中に王様が眠っていたのだと聞いて、もっとびっくりしました。

今回、様々なことを学び、多くの人に出会い、ぼくは少し成長することができたと思います。今後は今回の交流を生かして、だれとでも仲良く協力し、少しでも人の役に立つことをしていきたいと思います。

## 韓国に行って知ったこと

三隅中二年　新谷　晃浩

僕は、韓国についてどんな国なのか想像し、歴史に関すること、料理のことなどいろいろ考えて、期待を胸に韓国に行きました。

「南北統一展望台」という所が一番印象に残っています。韓国は、北朝鮮といろいろな問題をかかえています。北朝鮮は手の届きそうなところにあるのに、そこには家族が離ればなれになっている人たちもいるそうです。僕は親がそばにいることがあたりまえになっているけど、その人たちは家族と一緒に暮らすことができません。今まで気付かなかったけれど、それが一番幸せなんだなと、改めて感じることができました。

韓国と日本は、歴史教科書問題などでうまくいかず、韓国の子どもたちとの交流会も中止になってしまいました。でもこういう時こそ、交流会を開きお互いのことを知ることが大切だと思います。来年は、こういう問題も解決され、日本と韓国は最も近い国として、お互いを分かちあっていけたらいいなと思います。

## 韓国に行ってみて

三隅中二年　椋木　聖智

日本にとても近い国「韓国」。近いけれど、たくさんの面で日本とは違っていました。

韓国の人々は日本人の大半にないものをもっていました。それは積極性です。最近の日本人は僕も含めて知らない人と話すことを恥ずかしがり、とても消極的です。僕は韓国に行って、日本人はもっと積極的になるべきだと感じました。

それから韓国は、北朝鮮との問題がありました。母国に帰れない人や、兄弟や親戚と再会できないままの人がいます。僕も早く両国が一つになることを願っています。

この五日間を通して、たくさんのことを学べました。僕も新しくできた仲間も、これからがんばって成長していけたらいいと思います。そしていつか会いたいです。

日本と韓国も、そして世界も、これから手をとり合っていかなければいけません。過去の問題もきちんと解決し、悲しい過去の失敗をくり返さないように、明るい未来を世界のみんなでつくっていけたらいいと思います。

## 韓国へ行って

三隅中二年　末永　千明

「日本に似ている」というのが第一印象です。韓国とは言葉や交通ルールは違っても、日本とほとんど変わりませんでした。

日本を離れて三日目、南北統一展望台に行きました。私が一番楽しみにしていたところです。

ここで私は、韓国の悲しい歴史についてくわしく知ることができました。未だに離ればなれになっている家族のことを思うと、自分がどれだけ幸せかわかりました。展望台から見える北朝鮮は、本当に近く、こんなに近いのに入れないことがくやしく思いました。何人もの人が、間を流れる川を渡ろうとしたと思います。私だったら迷わず川を横切って家族に会いに行くでしょう。早く南北をつなげることができたらいいと思いました。

今回できた多くの友達との思い出は、しっかりと胸にしまっておこうと思います。そしてこの思い出を、日韓の友好関係を深めるために役立てていきたいです。

## 日韓友好少年少女の船

三隅中三年　村田　祐亮

古墳公園では、大きいものから小さいものまで20近くも古墳がありました。大きな古墳を掘り出し、何が埋めてあるのかを調べるために、違う古墳で掘り出すテストをしてみると、その古墳からたくさんのかんむりなどが出てきたので、結局大きな古墳を掘らずに終わったのだそうです。

次の日、ロッテワールドで騒いだあと、統一展望台に向かいました。統一展望台は一九九二年にできたそうです。3・2㎞離れた対岸が朝鮮民主主義共和国でした。望遠鏡で朝鮮をのぞいてみると、展望台の入り口では銃を持った軍隊の人がいて、とても興奮しました。

この日韓友好少年少女の船に参加して、僕の知らなかった韓国を見ることができて、とてもよかったです。これから日本と韓国は仲の良い国になってほしいです。

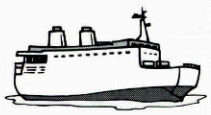
## 日韓友好少年少女の船に参加して

三隅中三年　加藤友紀子

日韓友好少年少女の船。それは私にとって不安だらけのものでした。教科書問題などで日本との関係があまり良い状態ではなかったからです。

また、初めての異国の地ということもあり、五日間やっていけるのだろうか、と思っていました。

いよいよ韓国へ踏み込むぞという前、私の思いのなかで一つの大きな驚きがありました。ある男の子が韓国の人と会話をしていたのです。相手は赤ちゃんを連れた女性でした。でも「アンニョハセヨ」という言葉だけです。何回もお互いに言い合い、そのうち笑顔が飛び交っていたのです。これが友好への第一歩なんだな、とその時初めて感じました。

昔、日本は韓国を植民地にし、言葉などを教え込みました。そんな歴史があったのだから、日本はこれから少しでも韓国のことを知り理解して、友好を深めていかなければならないのではないかと思いました。

私はこの五日間の体験を、これからの日韓友好に役立てていけるようにしたいです。